

---

## 南海トラフ地震における四国ブロックの被害想定と DMAT 活動に関する検討

(三村誠二、平成 25 年厚生労働省補助金 総括研究報告書、p.99-110)

2016 年 5 月 20 日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

内閣府による平成 25 年 5 月までにまとめられた南海トラフ地震における被害想定 of 報告書を受け、各都道府県では独自の解析や調査を行い、被害想定の見直しや対策をまとめている。そこで、四国ブロック各県の災害拠点病院の被害状況、急性期における重症傷病者数、SCU（広域医療搬送拠点）の検討を行い、概ね発災 24 時間以内の必要 DMAT（Disaster Medical Assistance Team: 災害派遣医療チーム）数を算定した。

### 1、 高知県

沿岸部で広範囲に 10～20 メートルもの津波が予想され、特に黒潮岬から足摺岬にかけては 20 メートルを超える津波被害が予想されている地域もある。災害拠点病院（阪神淡路大震災を受けて原則二次医療圏に一か所以上整備されている災害時医療の要）9 施設のうち、7 施設もが津波、浸水被害にあってしまう。高知大学病院は高知県想定では機能維持可能とされており、同県の SCU は三か所とされている。各 SCU や拠点病院の診療機能維持のために高知県全体では 93 チームが必要となる。

### 2、徳島県

徳島県では東部沿岸で 5～10 メートル、南部沿岸で 10～20 メートルの津波が予想されている。また徳島県中央を流れる吉野川流域で液状化、沈下が予想されている。津波、浸水被害を差し引いても機能維持可能とされている災害拠点病院は 6 か所とされている。残存施設での全ての重症傷病者の収容は困難とされており、早期の広域医療搬送が必要となる。SCU への派遣なども含めると、徳島県全体では 76 チームが必要となる。

### 3、香川県

香川県は瀬戸内海に面しているが、県東部、西部で震度 7 の揺れとともに、沿岸部で津波、浸水、液状化の被害想定がなされている。地震の揺れ及び、津

波、浸水被害から残存する災害拠点病院は 5 か所とされている。SCU と設定された高松空港には、香川県内だけでなく、高知県、徳島県から広域に傷病者を受け入れることとなる。香川県全体で 69 チームが必要となる。

#### 4、愛媛県

愛媛県では佐田岬半島以南の沿岸では 5～10 メートルの津波が予想され、県内のほとんどで震度 6 強以上の揺れが予想されている。地震の揺れ及び、津波、浸水被害から残存する災害拠点病院は 6 か所とされている。SCU と設定された松山空港には、高知県からの傷病者搬入なども考慮する。残存施設での全ての重症傷病者の収容は困難とされており、早期の広域医療搬送が必要となる。SCU への派遣なども含めると、愛媛県全体では 82 チームが必要となる。

#### 考察

四国 4 県の所有する DMAT チーム数は 93 チームであり、4 県ともにキャパシティを大幅に超えた負傷者の発生が予想されており、重症傷病者数も SCU から急性期のうちに搬送可能な数を超えている。四国ブロックでは、四県を統合した DMAT の配置、運用を考える必要がある。被災地内の SCU に特に重点的に DMAT を配置し、活動拠点本部へと派遣するのが有効と考えられる。また、さらなる DMAT 隊員の養成と、初動における派遣方法、経路などの検討が必要である。